

ワイン原料用の梨 猛暑乗り越え納入

掲載日：令和7年9月5日（金）

稲城の梨生産組合は8月27日、山梨県甲州市のフジクレールワイナリーに、稲城の梨ワインの原料となる梨「稲城」を納めた。

稲城の梨ワインは東京都稲城市の特産梨の規格外品を有効活用するため、稲城酒販組合と稲城市役所などが協力し、2007年に誕生した。同組合は規格外品の品質基準を定め、稲城の梨ワインの品質が良くなるよう毎年取り組む。

今年は6月下旬からの猛暑や雨不足などによる影響で昨年より出荷量が減ったが、農家の生産努力で61戸が1338キロの梨「稲城」を出荷できた。

稲城酒販組合の遠藤誠組合長と共に梨を納めたJA東京みなみの城所健司課長補佐は、「今年もブランド梨「稲城」を出荷できてうれしい。稲城の梨ワインはフルーティーで女性にも人気がある。10月下旬頃から市内酒販組合加盟店とJAで販売する予定で、ぜひ飲んでほしい」と話した。



梨の検品と計量を行う遠藤誠組合長（中央右）とワイナリー職員（山梨県甲州市で）